

経済産業省も一緒になって考えてくれている。何とか実現できるよう全力を挙げて協力したい。

**林** 畑作では小豆の価格が高騰し、菓子メーカーが買いづらくなっている。

**吉川** 昨年12月に十勝を訪れ、JAおとふけの工場を視察した。他の地域も頑張っていると思うが、菓子メーカーは十勝産でないのだめなのだろう。

品質の高い小豆を生産するのは大変なことで、現状では供給量が減り、大変な品薄になっている。海外から輸入しなければならない状況だ。

「天候に左右される作物を作ってもしょうがない」などと生産者に思われぬよう、今年の暮れには対策を打ち出した。何とか皆さんに頑張ってもらえるのではないだろうか。

## ◆日米協定 TPP以上ない

**林** 2019年度の生乳取引価格（乳価）が決まった。飲用向けが1キロ当たり4円の引き上げ、チーズやバターなど乳製品向けは据え置きだった。国産ナチュラルチーズの70%は十勝で生産されている。乳製品向け乳価や生産対策をどう考えているか。

**吉川** ここ数年、チーズに対する乳価はかなりアップしている。合わせてTPP（環太平洋連携協定）11、欧州とのEPA（経済連携協定）関連のチーズ対策として、昨年に続いて150億円の補正予算案を概算決定してもらった。

おいしいチーズは上質な生乳からできる。大臣就任前の昨年、党の立場で150億円は上質な生乳を作っている生産者に手厚く配分できるよう提案もした。

チーズ対策は国として十分やっているつもりなので、おいしいチーズになるような生乳を生産してほしい。世界に負けない十勝ブランドの上質なチーズをたくさん作ってほしい。

**林** 昨年末のTPPに続き、2月1日には日欧EPAが発効する。日中の貿易交渉の行方にもよるが、日米の物品貿易協定の交渉も控えている。見通しは。

**吉川** 日米物品貿易協定は、米国内の手続きで、1月20日から交渉が可能になる。だが、実際にいつから始まるのかというと、米国には米国の事情があり、日本では近く国会が召集される。私自身は交渉担当ではないが、そういうことを考えると、交渉に入れると言いつつも、両国ともなかなか難しい状況にあるのではないか。

物品関係の交渉で最も大切なのは、首脳同士で約

束したこと。TPP以上に開放することはないという約束を、文書にし、互いに署名している。これは極めて大きい。TPPの内容が全てで、それ以上のものになることはない。

## ◆外国人材 繁閑克服を

**林** しかしながら、国内対策も重要だ。

**吉川** 国内対策は政策大綱に基づき、しっかり打ち出さなければならない。「牛マルキン」「豚マルキン」もその一環で、法律を改正し、補填（ほてん）率を上げた。

TPP対策の中で、十勝など道内で最も利用されているのが「畜産クラスター事業」と「産地パワーアップ事業」。これらもさらに充実させたい。畜産クラスターは、家族経営を含めてもっと使いやすくしようと検討に入った。

産地パワーアップ事業の「生みの親」は十勝。十勝からTPP対策として畑作をさらに強くするよう、畜産クラスター事業の畑作版をやってほしいと、組合長会の有塚利宣会長をはじめとする皆さんから提案されたのが契機。畑作だけではなく、水田、果樹、野菜も含めて全体を包含する国内対策事業ができないかと、事業を創出した。十勝の皆さんは（事業の趣旨や経緯などを）理解し、有効に利用してもらっている。

**林** 十勝でもベトナム人や中国人が数百人、酪農や畜産を手伝っている。人手不足は深刻だ。

**吉川** 正直に言うと、今の外国人技能実習制度の在り方を見たとき、外国人労働者の法案に対して慎重な考えを持っていた。半面、「外国人がいなければ酪農が、農業全体が持たない」との切実な話も聞いている。特に十勝の酪農関係者は声を上げていた。

人口減少や高齢化で農業人口が減る中、北海道農業のみならず、外国人労働者に農業をしっかりやってもらうことが必要だと改めて認識した。運用面を充実し、スムーズに受け入れてもらい、日本に来る外国人にも気持ちよく働いてもらうことが大切だ。

運用面はだいたい決まってきた。農業の場合、農閑期をどうするかという問題がある。例えば、十勝農協連などのしっかりとした組織に受け入れ団体、監理団体になってもらい、地域内で繁閑によって派遣ができるような仕組みもつくった。みんなで知恵を出し、工夫しながら外国人労働者が有意義に仕事ができる体制をつくってほしい。